

Nuit de la Philo 2026

第12回

「哲学のタベ」

アナキズム

権力の形態を再考する  
権力の形態を再考する

2026年5月30日(土)

展覧会期間：5月16日(土)～6月21日(日)

主催・会場：東京日仏学院

Samedi 30 mai

Exposition du 16 mai au 21 juin 2026

Institut français de Tokyo

ANARCHISMES  
Nouvelles réflexions sur les formes de pouvoir  
NOUVELLES RÉFLEXIONS SUR  
LES FORMES DE POUVOIR

# 2026 NUIT DE LA PHILO

## 第12回「哲学のタベ」

### アナキズム—権力の形態を再考する ANARCHISMES – Nouvelles réflexions sur les formes de pouvoir

5月30日(土) Samedi 30 mai

13:00 – 15:00 | エスパス・イマージュ Espace images

#### 伊多波宗周とカトリーヌ・マラブーによる 講演と対談(同時通訳付)

#### Conférence et discussion entre Munehika Itaba et Catherine Malabou

予約：500円 Réservation : 500 yens

#### 伊多波宗周「統治すれども君臨せず」—ブルードン とアナキー—

#### Conférence de Munehika Itaba, « Il gouverne et ne règne pas » – Proudhon et l'anarchie

カトリーヌ・マラブーも指摘するように、ブルードンは、『所有とは何か』(1840)において、「アナキー」の語に意味上の革命をもたらした。それはもはや、混沌や無秩序を指すのではない。ブルードンは言う—「社会はアナキーのうちに秩序を求める」。アナキーとは、「私たちが日々近づいている統治形態」なのである。今回の講演では、『所有とは何か』の議論、およびその前年の『日曜祝祭論』(1839)に登場する「統治すれども君臨せず」という言葉を手がかりに、ブルードンにとってアナキーがどのようなものであったかを



を押さえない。そのうえで、今日、アナキーをどのようなものとして捉えうるか、やや自由に考えてみたい。

#### 伊多波宗周

著書に『社会秩序とその変化についての哲学』(2023)、訳書にピエール=ジョゼフ・ブルードン『所有とは何か』(2024)、エドゥアール・ジュールダン『ブルードン』(2024)がある。

#### カトリーヌ・マラブー「ブルードン—不勞所得から剥奪へ： 記憶なき隷属の系譜」(オンライン)

#### Conférence de Catherine Malabou, Proudhon, de l'aubaine à la dépossession : généalogie d'une servitude sans mémoire (en ligne)

本稿は、ピエール=ジョゼフ・ブルードンの『所有とは何か』を、哲学とアナキズムの関係に関するより広範な研究の文脈に位置づけることで、哲学的な再解釈を試みるものである。カール・マルクスが「所有とは窃盗である」という有名な一節を経済的な観点から解釈し、窃盗を剰余価値に還元したが、本稿ではそのような解釈はその最も深遠な政治的・象徴的意義を見落としてしていると論じる。

#### カトリーヌ・マラブー |

#### Catherine Malabou

カリフォルニア大学アーバイン校の比較文学科で哲学の教授を務める。近著に『Au Voleur ! Anarchisme et Philosophie』(邦訳：泥棒！アナキズムと哲学) (2022)、『Il n'y a pas eu de révolution : Réflexions anarchistes sur la propriété et la condition servile en France』(2024)などがある。



15:15 – 15:45 | 中庭 Jardin

#### カワグチタカオによるパフォーマンス 「散った桜の花びらを掃き集める隣のマンション の管理人」

#### Performance de Takao Kawaguchi, Le gardien de l'immeuble d'à côté qui ramassait les pétales de cerisier

無料・予約不要 Entrée libre

「私は春があまり好きではありません。それまで停滞していたものがそろそろ動き始めて、次々と開花していくのに急ぎ立てられているようで落ち着かないのです。桜が咲き始める頃にはそろそろ諦め半分腰を上げねばなりません。散ったら最後、ブレーキはかからず一挙に夏に突入していきます。ところがこの真面目で働き者の管理人さんは、足元に広がるピンクの絨毯を引き剥がすようにホウキで花びらを掃き集めている。私はハッとします。オジサンはそれを隠蔽して宴が終わるのを阻もうとしているのか、それとも早く次のシーンへ進もうとしているのか。時間が右往左往する。私は困惑させられながらもそのような瞬間を捕まえて、荒々しい緑の侵略に抵抗したいと願います。」

#### 川口隆夫

1996年より「ダムタイプ」に参加。2000年よりソロ活動を開始し、舞台パフォーマンスの幅広い可能性を追求する。『大野一雄について』(2013)で舞踏を参照し、『バラ色ダンス—純粋性愛批判』(2022)ではジェンダーやセクシュアリティのテーマに取り組む。



© Hiroki Obara

16:15 – 17:30 | エスパス・イマージュ Espace images

#### エミリー・ノテリスと清水知子による講演と対談 (同時通訳付)

#### Conférence et discussion entre Émilie Notéris et Tomoko Shimizu

予約：500円 Réservation : 500 yens

#### エミリー・ノテリス

#### 「アナルカ・フェミニストの伝達と創作」(オンライン)

#### Conférence d'Émilie Notéris, Transmissions et fabulations anarcho-féministes (en ligne)

1932年にアンリ・ベルクソンが提唱した仮構機能が社会の形成を支えるものであれば、2008年にサイディア・ハートマンが展開した批評的創話は、一種の是正的手段として機能し、「既成の、あるいは公認された物語をずらし」、「何が起こり得たか、あるいは何が語られ、行われ得たかを想像する」ものである。『Wayward Lives』(2019)において実践されたこの手法は、国家や規範に反抗する黒人女性たちのアナキーを浮き彫りにしている。批判的フィクションの創作そのものが、アナキスト的であると見なすこともできるだろう。



#### エミリー・ノテリス |

#### Émilie Notéris

文筆家、翻訳家。理論と文学の領域を横断し、既成の物語に対する批判的な再読を提案する。フェミニスト、クィア、脱植民地主義的なカウンター・ナラティブによって引き起こされる視点の転換に関心を寄せる。

#### 清水知子

東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授。専門は文化理論、メディア文化論。著書に『文化と暴力—揺曳するユニオンジャック』(月曜社)、『ディズニーと動物—王国の魔法をとく』(筑摩選書)、共訳書にジュディス・バトラー『アセンブリ—行為遂行性・複数性・政治』、『非暴力の力』(共に青土社)、他。



17:45 – 18:45 | エスパス・イマージュ Espace images

#### 展覧会の紹介(日本語のみ)

#### Présentation de l'exposition Anarchismes

無料・要予約 Gratuit, sur réservation

#### キュレーション：

アレクサンドル・タルバ、藤本裕美子

Commissaires de l'exposition : Alexandre Taalba, Yumiko Fujimoto

→展覧会情報を参照 Voir l'encart sur l'exposition

19:00 – 20:00 | エスパス・イマージュ Espace images

#### 森元齋によるトーク

#### 「いろんなとこにアナキー！」

#### Rencontre avec Motonao Mori, L'anarchie, partout !

予約：1500円 Réservation : 1500 yens

※「神なし、主人もなし」上映とのセット

「アナキズムは嫌いじゃないけれども、イズムに縛られちゃうのは、ミイラ取りがミイラになるようなものだと思う。立場上(?)と建前上、アナキズムはいいよね、という話をするかもしれませんが、いろんなとこにアナキーを見出していくのが自分は面白いと思っているので、その辺の話をするかもしれないし、しないかもしれない……早く酒飲みたい！」

#### 森元齋

長崎大学准教授。著書に『ただ生きるアナキズム』(青弓社)、『死なないための暴力論』(集英社インターナショナル新書)、『もう革命しかないもね』(晶文社)、『国道3号線』(共和国)、『アナキズム入門』(ちくま新書)、『具体性の哲学』(以文社)など。



© 繁田あづさ

20:15 – 22:00 | エスパス・イマージュ Espace images

#### 上映会：『神なし、主人もなし：アナキズム の歴史』より

#### 第一部「破壊の情熱」と第二部「土地と自由」 (2016年、104 min、日本語字幕)

#### Projection du film Ni Dieu ni Maître : Livres 1 & 2, réalisé par Tancredè Ramonet

予約：1500円 Réservation : 1500 yens

※森元齋によるトークとのセット

タンクレード・ラモネ監督によるドキュメンタリー映画。未公開もしくは公開されることの少ない貴重なアーカイブ資料と、研究者やアナキズム運動の第一人者たちへのインタビューをもとに、アナキズムの歴史を描き出す。Temps noirとARTE Franceの共同製作。



© BM Dijon

13:00 - 19:00 | 屋外 Extérieur

superString「資本主義大破壊商店」  
Magasin de la grande destruction du capitalisme

→展覧会情報を参照 (voir l'encart sur l'exposition)

時間は後日発表 | 屋外 Extérieur

屋台「呑んべえ号」  
“Nonbei-go” food stall

移動式の居酒屋「呑んべえ号」が東京日仏学院にやってくる！

松本哉

リサイクルショップ・素人の乱5号店店主。山下陽光らと高円寺に「素人の乱」をオープン。「マヌケゲストハウス」や「なんとかBAR」を開業する他、近年は東アジアの地下文化圏との交流“世界マヌケ革命”を展開中。



5月31日(日) Dimanche 31 mai

15:00 - 17:00 | エスパス・イマージュ Espace images

上映会：『神なし、主人もなし：アナキズムの歴史』第一部と第二部 (104min、日本語字幕付)

Projection du film *Ni Dieu ni Maître : Livres 1 & 2*, réalisé par Tancrede Ramonet

予約：1500円 Réserveation : 1500 yens

6月5日(金) Vendredi 5 juin

19:00 - 21:00 | エスパス・イマージュ Espace images

上映会：『神なし、主人もなし：アナキズムの歴史』第一部と第二部 (104min、日本語字幕付)

Projection du film *Ni Dieu ni Maître : Livres 1 & 2*, réalisé par Tancrede Ramonet

予約：1500円 Réserveation : 1500 yens

5月16日(土)～6月21日(日) Samedi 16 mai - Dimanche 21 juin

展覧会「アナキズム：友よ、榎の木の下は心地よい」

Exposition *Anarchismes : Amis, il fait bon sous les chênes*

時間：火～木曜日 11:00 - 19:00 金、日：11:00 - 17:00  
土：11:00 - 18:00 (月曜閉廊)

入場無料

本展は、アナキズムを無秩序や反抗の表象としてではなく、国家・資本主義・植民地主義・家父長制という権力構造への批判として捉える。自由と平等の還元不可能な均衡、自律と相互扶助、共同闘争から生成する帰納的哲学を軸に、芸術を単なる象徴ではなく、抵抗・共有・自己組織化・政治的実験の場として再考する。現代美術を通じ、日本におけるアナキズムの美学と革命的想像力の現在を問う。

参加アーティスト：

川口哩央、小宮りさ麻史奈、「絶え間ない混沌」プロジェクト、田中永峰良佑+ARCHIVE、アリー・ツボタ、superString  
キュレーション：アレクサンドル・タルバ、藤本裕美子  
共催：ゲバルト団体

Avec : Rio Kawaguchi, Marina Lisa Komiya, Constant Chaos Project, Ryosuke Tanaka Nagamine+ARCHIVE, Allie Tsubota, superString

Commissaires : Alexandre Taalba, Yumiko Fujimoto  
Co-organisée par Gewalt Dantai



展覧会 関連イベント

5月16日(土) 15時：オープニングレセプション、川口哩央によるパフォーマンス

5月17日(日) 15時：川口哩央によるパフォーマンス

5月30日(土) 13時～19時：資本主義大破壊商店

6月6日(土) 上映会

※詳細はウェブサイトをご覧ください。

6月6日(土) Samedi 6 juin

14:00 - 15:30 | エスパス・イマージュ Espace images

川口哩央『アーマーガサキングα影と光 破壊と再生』(15min)  
小宮りさ麻史奈、鈴木千尋『繁殖する庭』(59min) ※プレトークあり

Projection des films de Rio Kawaguchi et Marina Lisa Komiya & Chihiro Suzuki

予約不要・無料

16:00 - 17:15 | エスパス・イマージュ Espace images

田中永峰良佑『魂の濁り』(50min) ※プレトークあり

Projection du film de Ryosuke Tanaka Nagamine

予約不要・無料

17:30 - 20:00 | エスパス・イマージュ Espace images

佐藤満夫、山岡強一『山谷(やま)ーやられたらやりかえせ』(110min) ※上映後、鶴岡哲によるアフタートークあり

Projection du film *Yama—Attack to Attack suivie d'une rencontre avec Satoshi Ukai*

予約：1500円 Réserveation : 1500 yens

日雇い労働者の街、東京・山谷の労働者の姿や、山谷争議団の闘争をとらえた80年代のドキュメンタリー映画。

「この映画には実に様々な問題が詰め込まれている。路上手配と暴力支配、被差別部落問題、在日朝鮮人問題、先行的保安処分、地域排外主義、下層差別、そして台頭するファシズムの芽……。しかもそれらは別々に存在するのではなく、寄せ場に集中的にあらわれるこの国の差別・支配構造そのものでもあるのだ。」(「山谷」制作上映委員会ウェブサイトより)

鶴岡哲 (アフタートーク)

一橋大学名誉教授。フランス文学・思想、ポスト植民地文化論。



© Oshima Shunichi

# 第12回「哲学の夕べ」 アナキズム—権力の形態を再考する

## Nuit de la Philo 2026 : ANARCHISMES – Nouvelles réflexions sur les formes de pouvoir

2026年5月30日(土) | 東京日仏学院

Samedi 30 mai 2026 | Institut français de Tokyo

※展覧会期間 5月16日～6月21日 | Exposition : 16/05 - 21/06

### 5月30日(土)のタイムテーブル

13:00-15:00

伊多波宗周とカトリーヌ・マラーブーによる講演と対談

15:15-15:45

カワグチタカオによるパフォーマンス

16:15-17:30

エミリー・ノテリスと清水知子による講演と対談

17:45-18:45

担当キュレーターによる展覧会の紹介

19:00-20:00

森元齋によるトーク

20:15-22:00

上映会『神なし、主人もなし：アナキズムの歴史』

\*\*\*\*\*

11:00-22:00

展覧会「アナキズム：友よ、榎の木の下は心地よい」

13:00-19:00

superString「資本主義大破壊商店」

(時間は後日発表)

屋台「呑んべえ号」

社会、環境、経済の多面的な危機に直面している今日、アナキズムへの関心が再び高まっています。無秩序や暴力と結びつけられた誤ったイメージとは一線を画し、個人やコミュニティの自律性を基盤とし、自由、公平性、相互扶助を追求するものとして、アナキズムを理解することができるでしょう。第12回「哲学の夕べ」では、哲学、芸術、そして現代における実践をとりあげながら、この思想の持つ豊かな可能性を探究します。初期のアナキスト思想家から、今日の社会参加の形態（エコロジー、フェミニズム、アクティビズム、あるいは新たな連帯の形）にいたるまで、アナキズムが今、私たちに何を教えてくれるのかを問い直していきます。日本でも他の地域と同様に、様々な危機や気づきをきっかけに、こうした考え方が、新たな生き方や組織のあり方として具体的なかたちで反映されています。今年の「哲学の夕べ」の中心には、アートが重要な位置を占めています。それは単なる装飾的なものではなく、実験の場としてのアートです。新しい協働の方法を模索し、権力的関係に抵抗し、より公正な生き方を想像する場です。展示では、社会構造や所有、労働、権威との関係を問い直し、非階層的な組織を構想するための道を切り拓くアーティストたちに焦点を当てます。

5月30日(土)には、講演会、対談、上映会、パフォーマンスが一日をとおして行われ、さらに展覧会や上映シリーズも一か月間にわたり開催されます。アナキズムを分かりやすく、生き生きとした多角的な視点からとらえ、この世界で私たちが共生する方法を再考する機会となることを願っています。

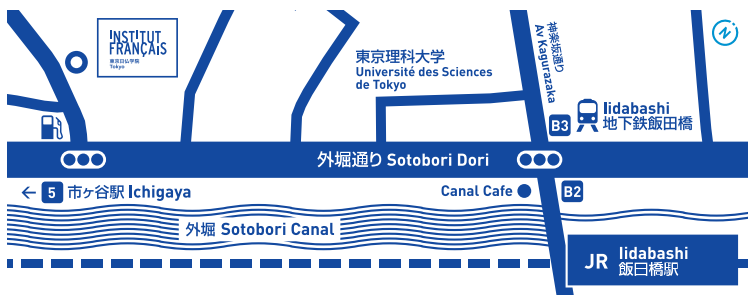
À l'heure où nos sociétés traversent des crises multiples, sociales, écologiques, économiques, l'anarchisme suscite un intérêt renouvelé. Loin des clichés qui l'associent au désordre ou à la violence, il peut être compris comme une recherche d'équilibre entre liberté, équité et entraide, fondée sur l'autonomie des individus et des communautés.

La 12<sup>e</sup> Nuit de la Philo propose d'explorer cette pensée dans toute sa richesse, en croisant philosophie, art et pratiques contemporaines. Des premiers penseurs anarchistes aux formes actuelles d'engagement (écologie, féminisme, activisme ou nouvelles formes de solidarité), il s'agira de questionner ce que l'anarchisme peut nous apprendre aujourd'hui. Au Japon comme ailleurs, à l'occasion de diverses crises ou prises de conscience, ces idées trouvent un écho concret dans de nouvelles manières de vivre et de s'organiser.

Au cœur de cette édition, l'art occupe une place essentielle. Non comme simple illustration, mais comme espace d'expérimentation : un lieu où s'inventent d'autres façons de faire collectif, de résister aux rapports de pouvoir et d'imaginer des formes de vie plus justes. L'exposition associée met en lumière des artistes qui interrogent les structures sociales, les rapports à la propriété, au travail ou à l'autorité, et ouvrent des pistes pour penser des organisations non hiérarchiques. Conférences, rencontres, projections et performances rythmeront cette journée, prolongée par une exposition collective et un cycle de projections. Autant d'occasions d'aborder l'anarchisme de manière accessible, vivante et plurielle, comme une invitation à repenser, ensemble, nos manières d'habiter le monde.

### 東京日仏学院 Institut français de Tokyo

東京日仏学院は、フランス政府公式の語学学校・文化センターです。



JR 総武線 飯田橋駅西口より徒歩7分

地下鉄 (有楽町線・南北線・東西線) 飯田橋駅B3出口より徒歩7分

都営地下鉄 (大江戸線) 牛込神楽坂駅A2出口より徒歩7分



〒162-8415 東京都新宿区市谷船河原町15

15 Ichigaya-funagawara-machi, Shinjuku-ku, Tokyo 162-8415

tél : 03-5206-2500

Email : [tokyoinstitutfrancais.jp](mailto:tokyoinstitutfrancais.jp)

[f instituttokyo](https://www.facebook.com/instituttokyo)

[X institut\\_tokyo](https://twitter.com/institut_tokyo)

[ig institut\\_tokyo](https://www.instagram.com/institut_tokyo)



詳細・ご予約はこちら :

プログラムは都合により変更されることがありますのでご了承下さい。変更のお知らせ、プログラムの詳細は東京日仏学院のウェブサイトをご覧ください。Programme sous réserve de modifications. Pour plus d'informations, consultez régulièrement notre site web :

[www.institutfrancais.jp/tokyo](http://www.institutfrancais.jp/tokyo)

主催：東京日仏学院 助成：笹川日仏財団

Organisée par l'Institut français de Tokyo  
Avec le soutien de la Fondation franco-japonaise Sasakawa